

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1293300057 | | |
| 法人名 | 株式会社マウントバード | | |
| 事業所名 | グループホームものの家の家 | | |
| 所在地 | 千葉県四街道市物井1806-12 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年1月30日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年5月12日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所 | | |
| 所在地 | 千葉県千葉市稲毛区園生1107-7 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年2月24日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・玄関を施錠せずいつでも散歩に行ける体制づくりをしています。 ・入居者様主体のホームづくりを心掛けている。 ・入居者様がスタッフと何でも言い合えるように十分な時間を設けずスタッフは、聞き役に回る体制を作っている。 ・月に一回以上外出・散歩・ドライブ・買い物などで、外部とのかかわりを多く設けている。 ・ご家族参加型(準備設営・調理・食事・立食式の家族会)のイベントを開催し、入居者様・ご家族様とて協力して芋煮会・バーベキューを行いました。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>理念である「第二の我が家」が、ホームが目指しているサービスのあり方の根幹にある。「利用者ができることを職員が取り上げない」支援を基本姿勢とし、利用者は家事なども男女の別なく役割を持って行っており、訪問当日もその様子が確認できた。また、ホームは地域との関係性を大切にしており、ボランティアも積極的に受け入れている。管理者と職員は家族や地域などと連携しながら、利用者を中心としたより良いサービスの提供を目指して日々取り組んでいる。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項 目 | | 取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印 | | 項 目 | | 取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印 | |
|-----|--|-----------------------------|---|-----|---|-----------------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | | |
|------------|-----|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I.理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・事業所理念「第二の我が家」の元、利用者様が出来ることを管理者と職員が理念を共有し自宅でできていたこと(洗濯物干し・たたむ・掃除・食器洗い・拭くなど)を探し実践してきている | 利用者のできることを継続支援し、職員がそれを取り上げないことをケアの根幹としている。利用者、職員、男女の別なくできることで参加してもらい、理念に沿った支援になるよう努めている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ・地域の方のギター、コーラスボランティアに定期的に来て頂き、交流している。 ・散歩中に地域の方と親しくなり、入居者様と一緒に会話している。 | ホームは地域の中で生活していることを意識しており、近隣との関係性を大切にしている。隣家にはホームの畑を手伝ってもらったり、野菜を分けてもらうなどの付き合いがある。また、地域の小学校教師の実習の受け入れもしている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ・オープン当時地域住民の方々に認知症とグループホームについての説明を千件以上行いました。 ・時には、入居者様と散歩中お話を頂き理解の言葉を頂くこともありました。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 3か月に1度市役所、民生委員、ご家族、ご入居者様、職員で話し合いを行い、サービスの向上に生かしている。会議では、芋煮会でご家族がどうしたら参加しやすい環境になるか、地域ボランティアをもっと活用したらどうか等、話し合いすることができた。参加できないご家族には議事録を送付している。 | 家族の参加を促すため開催する曜日を土・日にしている。参加メンバーである民生委員が自治会との関係調整やボランティアの紹介をしてくれるなど運営推進会議をホーム運営に活かしている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議を通じて取り組みを報告している。その他、感染症が発生した際は報告、相談している。また、訪問した際は空き情報なども伝え、入居者を紹介してくれることもある。 | 市の高齢者支援課を定期的に訪問して、ホームの状況を伝えている。行政が主催する「ケアマネ協議会」や3か月に1回行われているグループホーム協議会に出席し、意見交換を行っている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・玄関等のドアには施錠せず、自由にポストや外に出入りできる環境にしている。その際はスタッフが見守り、同行している。 | 利用者の行動を制限しないように、見守りで対応している。法人が行う身体拘束の研修に管理者が参加し、内容は全体ミーティングで伝達研修を行い職員間で共有している。ケアの中で拘束と思われる状況を見た場合はその都度注意している。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ・ミーティングの時に随時話すことにより、意識の向上を図り雰囲気作りを徹底している。 | | | |

【評価機関】

特定非営利法人VAICコミュニティケア研究所

| 自己 | 外部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・成年後見制度を取り入れているご入居様、ご家族への対応など、ミーティングで話し合い理解を深めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・契約時に時間をかけ十分に説明をしており、変更事項があればその都度不安や疑問点について面会や電話で説明を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・運営推進会議にて意見・要望を伝える機会を設けている。 ・また、利用者様やご家族様より話しやすい雰囲気づくりを大切にしている。 | 家族等の意見は面会時などに聞くようにしている。また、利用者の意見は来訪する市の介護相談員を通して把握するなどし、できる限り運営に反映するよう努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ・ホーム長がスタッフ一人ひとりと面談を行い、日常業務の様子や不安不満に思っている事を改善できるように努めている。 | 半年に1回職員と個別に面談する機会を設け、普段解決しにくい不満や希望・勤務状況などを聞き取り、改善できるように図っている。日常業務に関する意見は、全体ミーティングで取り上げ運営に活かしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務時間などは把握しており、不安や相談がある際は個々に相談に応じている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 定期的に法人内で研修を行っている。また、外部の研修にも参加できるよう声をかけたり、勤務日、費用の調整を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・定期的に市内のグループホームとの情報交換の場を作り、合同で合唱の発表などの予定をたて交流をしている。 | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | | |
|---------------------|-----|--|---|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・入居前の段階で自宅に赴き、ご家族様・入居者様に会いアセスメントをして少しでも不安な点があれば、解決できるように十分な説明や話し合いをして入居してもらう。 ・場合によっては、実際にホームを見学していただくこともある。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ・入居前にご家族様の困っていること、不安などのニーズは何なのかを聞き、その取り組みにご家族様にも協力してもらっている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前に居宅介護支援事務所のケアマネージャーまたは、関係機関と話し合い入居者様がグループホームでの生活に適しているかを検討し、そぐわなければ他のサービス利用を検討する。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員都合での時間の経過ではなく生活の場として入居者様主体としてホームで暮らしてもらえるように支援している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ・家族様が面会に来やすく、ゆっくり過ごしていただけるような雰囲気大切にしている。 ・また、ご家族様参加型のイベントを定期的に行っております。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ・ホームにご友人・知人が気軽に遊びに来てもらえる対応、ご友人やご家族との外出時に安心して頂けるよう事前に段取りを組み、外出しやすい支援をしています。 | 日本舞踊の師範をしていた利用者のお弟子さんが訪ねてきて踊りを披露してくれたこともある。職員が同行して自宅に帰って掃除をしたり、行きつけの美容院に行くなど、関係性継続の支援をしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様同士の関係を把握してスタッフがいつでも話を聞く体制で、利用者様同士の間にスタッフが入り支え合える支援をしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用が終わってもご家族様からの相談や依頼があれば支援するようにしています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の希望や意向を日頃の会話などで耳を傾ける。 困難な場合は、ご家族様から意向を聞いたり、生活歴など把握した上で検討する。 | 入所時に本人・家族の生活歴、希望や意向をていねいに聞き取り、独自のアセスメントシートに記入している。入所後は信頼関係を作ることに努め、思いや意向を聞きとるようにしている。コミュニケーションが難しい利用者は、家族や日常生活の中から把握した情報を基に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時にご家族様・ケアマネジャー・医療機関・本人からアセスメントします。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ・一日の過ごし方を記録や管理日誌に残す。 ・普段と変わった言動などがあったときは、記録に残して把握する。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入居者様・ご家族様よりニーズを聞く時間を作ったり、本人希望や意向をミーティング時に話し合いスタッフの意見やアイデアを基に介護計画を作成している。 | 入居時のアセスメントや利用者、家族の意向を踏まえ、担当職員の情報をもとにカンファレンス、スタッフ会議などで検討して介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日常的な言動を注意深く観察し、特変事項を記録に残しケアの検討・見直しを介護計画に生かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入居者様・ご家族様よりニーズを聞きその時の状況にあわせ、訪問マッサージやボランティアを活用する。 | | |

| 自己 | 外部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 入居者様の希望のデパートや外食・医療機関・を把握し地域資源とのマッチングを図り豊かな暮らしを楽しんでいただける様支援します。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・ご家族様の希望や意向がありかかりつけ医を継続で利用しています。 | 入所時に本人や家族の意向を優先し、以前からのかかりつけ医かホームの協力医か選択してもらっている。協力医は月1回の定期的な往診の他、必要に応じて往診している。かかりつけ医の受診は家族に対応を依頼しているが、ホームからも情報提供し医師との情報共有を図っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | グループ診察時に看護師が同席することになっており今まで以上に状況の把握をもらえ、入居者様の体調変化の対応がスムーズになりました。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院関係者との関係ができており入院時に家族・看護師・病院・ホーム間で情報交換を密にしております。入院時も定期的に病院に行き病院関係者と早期退院に向け相談を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期のありかたは、契約時に家族様に説明している。終末期にはご本人とご家族がどうありたいのかを理解して、事業所でできる事を話し合いしている。 | 入居時に看取りや終末期の支援について説明している。終末期が近づいた段階でかかりつけ医が家族に現状を説明し、さらに医師、看護師、家族、事業所で話し合いながら支援している。看取りの経験があり、職員の受け入れ態勢もできている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ・緊急時、落ち着いて対応ができるように対応方法の確認を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ・水の貯蓄をしている。夜間火災時の対応については消防員たちあいのもと避難訓練を行いました。 | 年2回の消防訓練を実施している。夜間の避難訓練も消防署の立ち合いで実施している。地域との協力体制については運営推進会議で議題として取り上げており、今後は具体化する予定である。 | 地域との協力体制の強化のために、近隣住民にも消防訓練に参加してもらうなどの働きかけもあるとよいと思われる。 |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | | |
|--------------------------|------|---|--|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている。 | 利用者の気持ちを大切にし、排泄や入浴時の支援や、声かけについても気を配って対応している。また、法人の研修の内容を事業所内で伝達研修したり、ミーティングでも繰り返し確認をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人が希望を表出しやすく時間を取ったり、自己決定のために、選択肢を多くするように心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | できるだけ職員都合ではなく生活の場として入居者様のペースに合わせた希望に沿ってその日をおくってもらえるように支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | なじみの理髪店へ行きおしゃれ染をしたり、スタッフと化粧をしてその人らしい表現ができるようにしています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者様のできることを探し、その人に合った作業をスタッフと共に行っております。 | 食材、献立は専門業者に委託しているが、時には、職員と利用者が食材を一緒に買いに行ったり一緒に調理することもある。普段の食事でも利用者は下ごしらえや盛り付けなど、できることで参加している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量・水分量・好むものを把握して、水分量の少ない方には摂取の回数を増やしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ・一人ひとり状態に応じて解除・見守り・声掛けにて毎食後行っております。 ・状態によっては、訪問歯科の受診も行っております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を用いて一人ひとりのパターンを把握し、自尊心を傷つけないように配慮し、オムツ等の選択時には、ご家族様と話し合いながら支援しています。 | 排泄チェック表や排泄パターンを見て声かけ誘導を行い、自立をしている人には見守りに対応するなど一人ひとりの力に沿った支援をしている。夜間もトイレ誘導を行い、リハビリパンツやおむつの利用者は少ない。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表を用いて看護師と相談しながら行っております。水分量の少ない方は、ゼリーなど形を変えて提供しております。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 職員の都合ではなく一人ひとりのタイミングや気分に合わせて入浴を楽しんでもらえるよう支援しています。 | 毎日入れるように準備し、週3回入浴支援している。季節感を大事にして柚子湯やしょうぶ湯なども行っている。また、入浴したくないという人にも職員がいろいろ工夫をして支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ・一人ひとりの生活パターンや状況に応じて休憩したり安眠ができるように支援しています。 ・リネン表を用いてローテーションで天気の良い日には、布団干しをスタッフと一緒にしております。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 訪問診療の先生、薬剤師、看護師と連携し、薬の変更があれば、連絡ノートを使いスタッフ内で情報を共有しております。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの好みを把握して生活歴などから、好きな飲み物を一緒に買い物に行ったりします。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | ・天気の良い日には散歩に出かけたり、地域のスーパーに行きご本人が好きな物を選び購入している。二か月に一度は車での外出をして、行き先など希望を聞いている。 | 近くの公園には日常的に出かけている。希望があれば買い物に付き添ったり、2か月に1度は水族館などに遠出をして外食を楽しんでいる。家族との外出で食事をしたりする利用も多い。 | |

グループホームものの家の家

自己評価(1階)・評価結果(全体)

| 自己 | 外部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ・お金の所持を希望する入居者様は、力に応じてお金を自分で買い物をしています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ・電話を掛けることを希望される方がいればホームの電話を利用しております。 ・中には、個人の携帯電話を自由に話している入居者もおります。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・家庭的な雰囲気を大切にしてリビング内をくつろげるスペースを作っています。 ・1か月ごとに季節に応じたカレンダーを入居者様と一緒に作っている。 | リビングは温度・湿度をこまめに調整している。お雛様などを飾り季節感を出し、通路の壁面の行事写真は、利用者や家族の話題作りに役立てている。飼っている金魚を眺めることも利用者の気分転換につながっていると思われる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合った入居者様と会話ができるようにリビングにソファを置いたり、テラスに椅子とテーブルをみんなで作ったりして、くつろげるスペースを作りました。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に自分の使っていた物や好みのかのカーテンを持ってきていただき、居心地の良い空間作りをしています。 | 居室は6畳分の広さがあり、さらに1畳分の収納スペースを設けている。それぞれスキャットした家具を持ってきたり家族の写真を飾って居心地よく過ごせるようにしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりやバリアフリー設備を付けて、必要に応じてスタッフの支援を受けながらその人らしく支援自立して自立して生活が送れるよう見守りや介助している。 | | |

【評価機関】

特定非営利法人VAICコミュニティケア研究所